

管内名	鹿本	学校名	山鹿市立米野岳中学校
-----	----	-----	------------

1 学力向上に向けた学校全体としての取組

(1) 校内研の充実

平成20年度「校内研テーマ」として

「熊本型授業の展開による確かな学力を持つ生徒の育成」
～学習意欲と喚起し、思考力、判断力、表現力等の育成を図り、
学びあう人間関係づくりを深める実践を通して～

◇仮説1 徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた熊本型授業の実践を行い、生徒の基礎的・基本的事項の確実な定着及び発展的な学習を行う授業の構造を明確にして共通実践することで、自らの進路を切り拓くための学力が育まれば、自分に自信が持てる生徒が育つであろう。

①具体的方策

◆授業研究部

- <内容>
- ・熊本型授業の実践を目指した指導法改善
 - ・研究授業の推進
 - ・評価の工夫改善
 - ・学習目標、導入、発問、評価の一貫性のある授業づくり

◇仮説2 学習規律・生活規律の確立をはかり、学習習慣の育成を図ることで、学習意欲が増し、自ら学ぶ生徒が育つであろう。

②具体的方策

◆学習環境部

- <内容>
- ・学習訓練や学習態度に関する実践
 - ・効率的に学習目標を達成するための学習形態の工夫
 - ・小集団を生かした授業・学習環境づくり
 - ・学活等における互いを認め合い、共に育ちあう集団活動の実践
 - ・日常的指導における差別を許さないなかまとしてのつながる取組
 - ・幼保小中連携カリキュラムにおける学びの連続性

◇仮説3 集団を意識した授業を共通実践し、学習環境を整え、互いを認め合える人間関係を育てれば、自尊感情やコミュニケーション能力が育ち、自分に自信を持ち、積極的に行動できる生徒が育つであろう。

③具体的方策

◆学習意欲向上部

- <内容>
- ・学習意欲を高めるための取組
 - ・家庭学習の習慣化を定着させる取組
 - ・学力を支える生活習慣を確立するための取組
 - ・授業開始前の学習への取組
 - ・サンシャインテスト・カバーの時間の工夫改善
 - ・個に応じた学習への支援

(2) 「日々の授業を大切に作る心」を育てる。(生徒と教師でつくる授業)

○学力の充実を図るためには、生徒自身が自らの力で「日々の授業を大切に作る」ことが重要である。学習向上委員会を中心に「かなりアップ」運動を実施し、下記の4項目を意識づけている。

「ア 授業開始2分前の教科書音読・ドリル学習・小テスト等 イ 集中して聞く

ウ 友達や教師の話に反応する エ 発表する」の4項目である。

「かなりアップ」運動は、各教科系の生徒が毎時間行っている。

*「国語・音読」「数学：計算問題」「音楽：歌を歌う」「英語：単語や基本文を音読」等学習向上委員が、各授業での教科係に指示をして行っている。

*「学習三原則」をカードにして教室に掲示している。(意識づけ)

◇学習三原則*「5分前行動・2分前着席：かなりアップ運動で待つ」
*目と心で聞く
*反応する レベル1 (挨拶：返事)
レベル2 (学び合い・教え合い)
レベル3 (発表する)

*基本的な学習習慣も少しずつ定着し、授業に対する生徒たちの意識も前向きになっている。

○家庭学習の習慣化のために、各クラス自主学習帳「コツコツノート」の提出を実施している。

◇コツコツノート「自主学習ノート」*学力向上のコツ「コツコツするコツが、
克つ骨」 その1 (授業が一番) その2 (勉強の基本は書くこと)
その3 (繰り返しやってこそ身につく) その4 (継続こそ力なり)

*毎日ノート1～2ページ自主的に学習している。ノートに努力や工夫のあとが見られるものは、クラスや学年で紹介して、本人や他の生徒の意欲につなげている。また、提出されたノートには、必ずコメントや励ましの言葉を記入するようにしている。

*毎日の担任や学年部での点検・アドバイスにより、内容の工夫や提出率もよくなった。

○日々の授業や朝自習を受けて、サンシャインテスト(国語・数学・英語の基本的なテスト)を毎週木曜日の朝に実施し、6校時のカバーの時間に全職員で補充学習を行っている。

◇サンシャインテスト「前週金曜日・月曜日・火曜日に行っている朝自習の問題の中から、木曜日の朝自習(8:15～8:35)で国・数・英のテストを行い、採点までする。
◇カバーの時間「毎週木曜日の6校時に設定し、朝のサンシャインテストの合格者は発展問題を挑戦し、不合格者は再テストを行う。カバーの授業者と各学年の先生で、わからない問題等の説明を行ったり、発展問題のアドバイスを行っている。

*個別指導等で基礎学力の補充や発展的問題への対応を行っている(基礎学力の保障の取組)

*基礎・基本の定着や発展的問題への挑戦など個別への対応が可能になり、生徒の意欲も高まった。

(3) ゆうチャレンジ結果分析や標準学力テストと比較した基礎基本の定着状況を把握し、
陥没点の領域や観点に徹底指導を実施する。個に応じた指導の効果的な活用を図る。
(T T、少人数指導等の工夫)

○定期テスト等でゆうチャレンジの問題を意識した自作問題を作成する。

*特に国語の長文音読や作文指導・理科・数学において活用し、思考力や論理性・表現力の向上に努め、「少年の主張での優秀賞」「県科学展への入賞」「読書感想画・ロゴマーク作品最優秀賞」「人権作文・税と私・くまもと教育の日文化庁作文入賞」等成果があった。

○授業においては、徹底指導(教え込むところ)と能動型学習(生徒を主体とした活動の設定)の
めりはりをつけた授業の構築を「授業づくり6つの取り組み」を基本に実施している。

特に、すべての授業で「めあて」をきちんと提示し、「本時の目標の明確化」や展開の中での「で(一人で)・と(友達と)・に(先生に)」を思考や発表に生かし指導の充実を図っている。

また、少人数指導（数学）やT T（英語）など授業方法の工夫改善のための校内研修、授業研究会（一人一回は必ず実施や校外からの講師の招聘）の充実を図り、教師の力量をさらに高めている。

◇本校の授業づくり「6つの取り組み」を大切にする。

- ・ 本時の目標を明確に示す
- ・ プレテストの実施
- ・ 基礎基本を押さえる
- ・ 生徒主導型の授業を心がける
- ・ 本当の学習意欲を引き出す工夫
- ・ 支持的風土を培うグループ指導に努める

（4）授業は、学力と豊かな心を同時に育てる人づくりの場であることを強く意識させる。

「授業は人づくり」具体的には、生徒に活動の場の保障（効果的なグループ学習の実施）、導入の工夫（具体物提示、教育機器の利用、5問テストの実施など）、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」言葉かけの工夫等があるが、更に教材研究や教材開発等を通して、全ての教職員にその意識化を図る。

現在、不登校生徒は0名である。不登校傾向の生徒はいるが、個々の生徒に応じた目標を設定し、学校総体としての教師集団の関わりと保護者との協力体制によって、粘り強く取り組んでいる。学年部を中心として、養護教諭（特別支援教育コーディネーター）、心の教室相談員、サポートティーチャー、オアシスの先生の力も借りながら、学校総体としての指導体制の充実を図っている。（「早寝・挨拶・朝ごはん」運動：米野岳中学校区幼保小中連携「ホップ・ステップ・ジャンプ」の共通実践）